

第4次鎌倉市図書館サービス計画年次評価表

令和5年度（2023年度）分

- ・統計は令和5年（2023年）年4月～12月末日時点の数字になります。
- ・表中 A：達成、実施 B：現状維持 C：未達成、未実施 となります。

鎌倉市図書館 令和6年（2024年）6月

図書館ビジョン
つながる ひろがる
100年図書館

目標 1
利用者にとって魅力ある図書館

重点事業
市民や鎌倉に関わる人にとって魅力ある蔵書づくり
具体的な取組
1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討
2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

目標 2
誰もが使いやすい図書館

重点事業
図書館を利用しづらい人へのサービスの充実
具体的な取組
1 一人ひとりに合わせた資料の提供とその周知
2 各種電子サービス等デジタル環境の整備
3 利用者の利便性を高める図書館業務システムの更新

目標 3
未来につながる図書館

重点事業
利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり
具体的な取組
1 新深沢図書館の機能の実現に向けた調整
2 新中央図書館の機能の検討と計画への反映

令和5年度重点事業

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組3 図書館振興基金の活用を図りながら、鎌倉に関する貴重な資料の収集や、それらを補修し、大切に保存、提供していきます。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
振興基金を利用して収集・補修・保存したもの	明治期以降写真アルバム整理保存デジタル化 31冊 古絵図鎌倉関係デジタル化 33点 古絵図鎌倉周辺図デジタル化 31点 年度内に完成納品予定。	原資料の保存環境の整備を行い、デジタル化することで、資料公開提供との両立を図ることができた。

A

令和5年度重点事業

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

取組2 読書バリアフリー法など社会状況の変化に対応できる職員のスキルの向上に努めます。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
実施・受講した研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーに関する書面研修を全職員対象に開催した。 ・認知症サポーター養成講座を全職員対象に開催し、職場として認知症に対する理解を深める機会を持った。 ・読書バリアフリーや社会状況の変化に関する外部研修の受講を促し、以下の研修を受講した。 国立国会図書館みなサーチ説明会、多文化対応力向上講座図書館編、図書館総合展フォーラム「UniLeafの活動について」、障害者サービス担当職員向け講座、読書バリアフリーをすすめるために、デジタルインクルージョン政策の動向と公共図書館の役割。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーについての研修を開催し、職員全員に一定の知識を浸透させることができた。 ・担当者を中心に、読書バリアフリーに関する外部研修を積極的に受講し、最新動向や知識を深めることができた。 ・左記の実績以外でも、手話付きおはなし会の充実、外国にルーツのある親子への支援を行うNPO法人との協働によるイベント開催、ものづくり体験の取組みを市民参加型の実験工房とともに行うなど、社会状況の変化をとらえた取組みを展開した。 ・今後も引き続き、読書バリアフリーや社会状況の変化に対応できる職員の育成に留意したい。

A

【協議会委員コメント】

- ・自己評価もAとなっているように、読書バリアフリーや認知症サポーター研修などニーズが近年に高まっている事柄の研修を適時実施しており、評価できる内容となっている
- ・認知症サポーター養成講座を全職員が受講されたことは大変良い取り組みだと思う。また、3ページの内容とも連動するが、日本以外のルーツの方へのサポート体制を強めることは、今後継続していただきたい課題である。
- ・図書館として目標に向けての努力との達成感を得られたものと思う。また今後継続の見通しが立っていると感じた。「外国にルーツのある親子への支援を行うNPO法人」や「ものづくり体験の取組みを市民参加型の実験工房」の名称を入れていただきたい。

令和5年度重点事業

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組3 やさしい日本語の利用案内や活字の大きな利用案内を作成します。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
利用案内の作成状況	情報収集及び検討中。	やさしい日本語をどのレベルにしていくか情報収集を行うこととし、統一した掲示を行うよう検討を始めた。 まずは玉縄図書館で先行して掲示している「やさしい図書館案内」の全館掲示に向け動く予定。

B

【協議会委員コメント】

・拙速ではなくしっかり検討している方針は大いに評価できる。それ以外にも市内在住の外国人で多い国籍の方の言語による利用案内なども検討していただきたい。（韓国の市立図書館を見学した際には、タイ・ベトナムなど東南アジアの移民のために利用案内が作成されていた。英語や日本語はあまり需要がないので作成はしていないとのこと）利用案内が未作成でも翻訳アプリなどを活用して日本語を母語としない方にもご案内などをしていただきたい。

・ここで示されている「やさしい日本語」というものが、具体的にはどのようなことを示しているのかが不明瞭。たとえば用語説明にある「LLブック」の中で示されているような説明や定義があれば理解ができるが、この文章の中だけでは、意味が判然としない。また、この取組の対象者が誰なのかも、よく分からない。子どもなのか、高齢者なのか、障害のある方々なのか、誰を対象とした取組なのかが、分からない。このあたりの記述をより明確な明瞭な内容にする必要があるのではないか。

・今後に期待している。

令和5年度重点事業

目標3 未来につながる図書館

【重点事業】利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり

1 新深沢図書館の機能の実現に向けた調整

取組 (3) 多様なニーズにこたえられる空間の設定（ゾーニング）を検討します。

- (1) 学校との連携、子ども読書活動支援の拠点機能を維持します。
- (2) 市役所と中央図書館及び他の地域館をつなぐ役割を果たします。
- (4) 議会図書室や総務課行政資料コーナーと連携して市民への資料提供に努めます。
- (5) 深沢地域の特色ある資料の収集・保存・活用を継続します。"

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
どのような調整を行ったか	令和5年度は主に新中央図書館機能の調整を行ったため、新深沢図書館の調整については情報収集を中心に行った。	令和5年度は主に新中央図書館機能の調整を行ったため、新深沢図書館の調整については情報収集を中心に行った。

B

令和5年度重点事業

目標3 未来につながる図書館

【重点事業】利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり

2 新中央図書館の機能の検討と計画への反映

取組 (3) 多様なニーズにこたえられる空間の設定（ゾーニング）を検討します。

- (1) 鎌倉市図書館全体のネットワークを統括する拠点館としての役割をはたします。
- (2) 鎌倉の歴史と文化を次の世代につなぐ郷土資料の拠点館とします。
- (4) 「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想」におけるサテライトとしての図書館資料の更なる充実をはかります。
- (5) 鎌倉市図書館全体の資料保存庫としての役割をはたします

評価項目	令和5年度（2023年度）		A
	実績	自己評価	
どのような調整を行ったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンデー「ONE DAY PLAYPARK」参加 ・ 新中央図書館の必要面積検討。 ・ 「皆さんのアイデアをお聞かせください」（鎌倉市図書館整備に向けた意見交換会）9月29日／10月8日／10月17日。 	<p>主に利用者・市民の新図書館への要望、意向をくみ取ることに努めた。子ども・若者のための機能、バリアフリーの機能、その他の機能に分けて様々な意見をいただいた。いただいた意見を担当課とも共有した。</p> <p>意見交換会についてはホームページに結果を公開している。</p>	

【協議会委員コメント】

- ・ 市民の方々の意見や先進的な取り組みをしている公共図書館等を参考にして、引き続き検討をしていただきたい。
- ・ 意見交換会の結果をHPで広く公開していることも市民への情報公開の観点からも非常に望ましい。
- ・ オープンデーに関しては市民全体に周知されていなかったこと（周りに機会があるたびに聞いたが知らなかったという人ばかりだった）図書館ボランティアへのお誘いがなかったことなどが気になった。ただとても盛り上がったと図書館の方も喜んでいたので、地域の大学、鎌倉女子大を図書館の協働事業の始まりとしては意味があったと思う。来年度もこの事業の継続に見通しはあるのか、その点も明記してほしい。（1回で終わりでは打ち上げ花火）
- ・ 意見交換会も実施したことは初めの一步としてとても素晴らしいと思うが、今後どれだけ深く掘り下げ活用できるかが未知数。
- ・ 自己評価Aは少し甘い。B+くらいか。

目標 1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

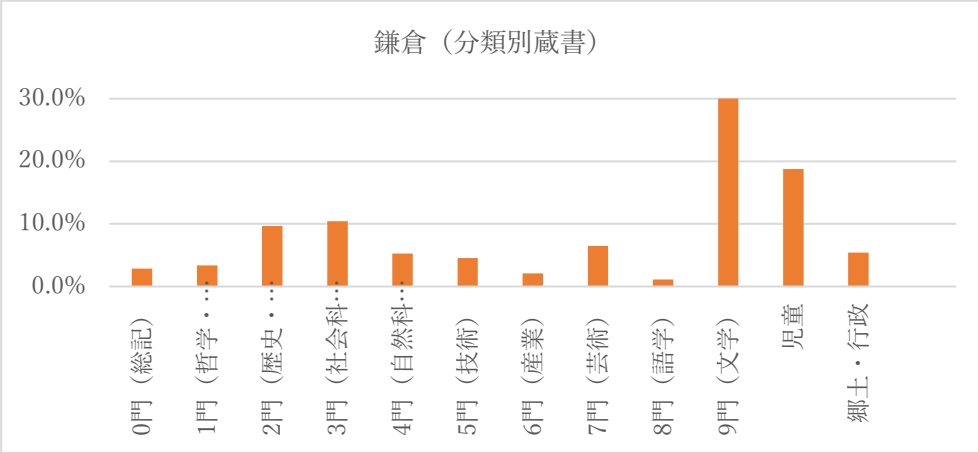
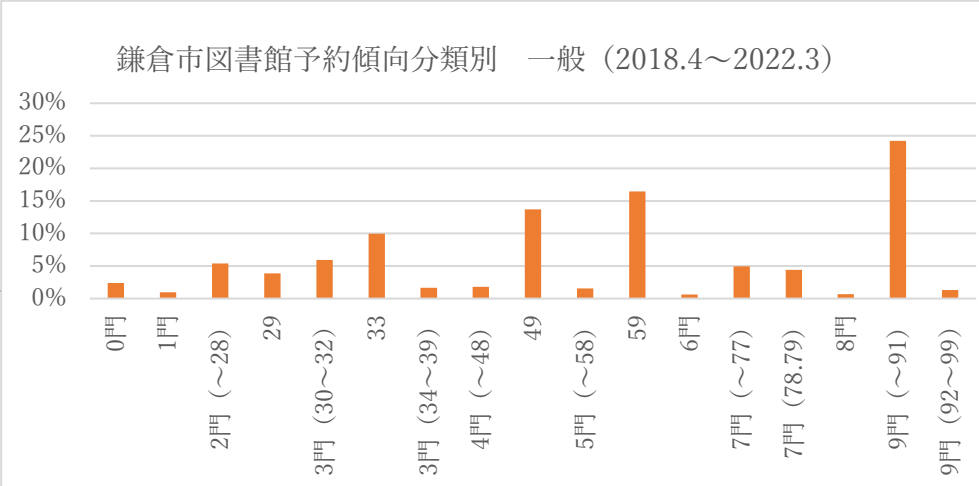
1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組 1 現在の蔵書構成及び出版状況を比較分析し、鎌倉市にふさわしい蔵書構築を検討します。

	平成 30 年度 (2018 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)		令和 7 年度 (2025 年度)
指標項目	現状	実績	自己評価	目標
年間貸出点数	1,326,000	970,393 令和 4 年度 12 月末 1,000,048)	年度末までの数字を見ないと評価は難しいが全体的に数字が低くなりそうではある。期間が短いので比較しての検証は来年度となる。	1,400,000
蔵書回転率	2.4	1.6		2.5
蔵書新鮮度	0.04	0.03		0.04
蔵書更新率	0.09	0.07		0.09
市民 1 人当たり貸出点数	7.5	5.6		8.1
リクエスト資料の提供数		283,332		

	平成 30 年度 (2018 年度)	令和 5 年度 (2023 年度)		令和 7 年度 (2025 年度)
指標項目	現状	実績	自己評価	目標
郷土資料受入数		644	初年度のため、数字を比較しての評価は来年度以降になる。	
資料に対する満足度評点／量 ／大人（来館）	3.16			
資料に対する満足度評点／量 ／大人（市民）	2.87			
資料に対する満足度評点査／ 量／子ども（来館）	3.91			
資料に対する満足度評点／量 ／子ども(市民)	4.08			
資料に対する満足度評点／種 類／大人（来館）	3.29			
資料に対する満足度評点／種 類／大人（市民）	2.95			
資料に対する満足度評点／種 類／子ども（来館）	3.65			
資料に対する満足度評点／種 類／子ども（市民）	3.33			

令和5年度（2023年度）

評価項目	実績	自己評価																																																														
出版状況の分析を行ったか	分野別新刊点数構成比を確認	<p>分類別蔵書構成については、県内他館と比べ2門が多め、9門が3割を占め、児童書が少なめ。蔵書構成グラフは逗子と酷似している。リクエスト傾向については9門（日本文学）、59（実用書）、49（医学）、33（経済）の順にリクエストが多い。児童は絵本と読み物がほとんど、やや自然科学が多い。鎌倉市としてはもう少し郷土資料の占める割合が多くてよいかもしれない。</p>  <table border="1"> <caption>鎌倉（分類別蔵書）</caption> <thead> <tr> <th>門数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0門（総記）</td><td>約2.5%</td></tr> <tr><td>1門（哲学・...</td><td>約3.0%</td></tr> <tr><td>2門（歴史・...</td><td>約9.5%</td></tr> <tr><td>3門（社会科...</td><td>約10.0%</td></tr> <tr><td>4門（自然科学...</td><td>約5.0%</td></tr> <tr><td>5門（技術）</td><td>約4.5%</td></tr> <tr><td>6門（産業）</td><td>約2.0%</td></tr> <tr><td>7門（芸術）</td><td>約6.0%</td></tr> <tr><td>8門（語学）</td><td>約1.0%</td></tr> <tr><td>9門（文学）</td><td>30.0%</td></tr> <tr><td>児童</td><td>約18.5%</td></tr> <tr><td>郷土・行政</td><td>約5.0%</td></tr> </tbody> </table>  <table border="1"> <caption>鎌倉市図書館予約傾向分類別 一般（2018.4～2022.3）</caption> <thead> <tr> <th>門数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0門</td><td>約2.5%</td></tr> <tr><td>1門</td><td>約1.0%</td></tr> <tr><td>2門（～28）</td><td>約5.5%</td></tr> <tr><td>29</td><td>約3.5%</td></tr> <tr><td>3門（30～32）</td><td>約5.5%</td></tr> <tr><td>33</td><td>約10.0%</td></tr> <tr><td>3門（34～39）</td><td>約1.5%</td></tr> <tr><td>4門（～48）</td><td>約1.5%</td></tr> <tr><td>49</td><td>約13.5%</td></tr> <tr><td>5門（～58）</td><td>約1.5%</td></tr> <tr><td>59</td><td>約16.5%</td></tr> <tr><td>6門</td><td>約0.5%</td></tr> <tr><td>7門（～77）</td><td>約4.5%</td></tr> <tr><td>7門（78.79）</td><td>約4.0%</td></tr> <tr><td>8門</td><td>約0.5%</td></tr> <tr><td>9門（～91）</td><td>約24.0%</td></tr> <tr><td>9門（92～99）</td><td>約1.0%</td></tr> </tbody> </table>	門数	割合	0門（総記）	約2.5%	1門（哲学・...	約3.0%	2門（歴史・...	約9.5%	3門（社会科...	約10.0%	4門（自然科学...	約5.0%	5門（技術）	約4.5%	6門（産業）	約2.0%	7門（芸術）	約6.0%	8門（語学）	約1.0%	9門（文学）	30.0%	児童	約18.5%	郷土・行政	約5.0%	門数	割合	0門	約2.5%	1門	約1.0%	2門（～28）	約5.5%	29	約3.5%	3門（30～32）	約5.5%	33	約10.0%	3門（34～39）	約1.5%	4門（～48）	約1.5%	49	約13.5%	5門（～58）	約1.5%	59	約16.5%	6門	約0.5%	7門（～77）	約4.5%	7門（78.79）	約4.0%	8門	約0.5%	9門（～91）	約24.0%	9門（92～99）	約1.0%
門数	割合																																																															
0門（総記）	約2.5%																																																															
1門（哲学・...	約3.0%																																																															
2門（歴史・...	約9.5%																																																															
3門（社会科...	約10.0%																																																															
4門（自然科学...	約5.0%																																																															
5門（技術）	約4.5%																																																															
6門（産業）	約2.0%																																																															
7門（芸術）	約6.0%																																																															
8門（語学）	約1.0%																																																															
9門（文学）	30.0%																																																															
児童	約18.5%																																																															
郷土・行政	約5.0%																																																															
門数	割合																																																															
0門	約2.5%																																																															
1門	約1.0%																																																															
2門（～28）	約5.5%																																																															
29	約3.5%																																																															
3門（30～32）	約5.5%																																																															
33	約10.0%																																																															
3門（34～39）	約1.5%																																																															
4門（～48）	約1.5%																																																															
49	約13.5%																																																															
5門（～58）	約1.5%																																																															
59	約16.5%																																																															
6門	約0.5%																																																															
7門（～77）	約4.5%																																																															
7門（78.79）	約4.0%																																																															
8門	約0.5%																																																															
9門（～91）	約24.0%																																																															
9門（92～99）	約1.0%																																																															
年間出版数をどれだけカバーしているか	未実施																																																															
現在の蔵書分析を行ったか	実施																																																															
近隣都市との比較を行ったか	実施																																																															
リクエスト傾向の分析を行ったか	実施																																																															
購入資料の傾向分析を行ったか	未実施																																																															
蔵書回転率の高い分野の分析を行ったか	未実施																																																															

A :
4項目

C :
3項目

【協議会委員コメント】

- ・ 資料費の予算が増えないと指標項目の数値は劇的に向上しにくいので、資料費の予算を増やすための努力をしていただきたい。
- ・ ここで示されている各指標項目の数値が全体的に低くなりそう、ということだが、その原因・理由については、ある程度検討されているのか。比較検証は来年度となる、とのことですが、すでに推定・想定されている主な原因・理由があれば、それを示すことはできないか。
- ・ 年間貸出点数が減少しているのは、人口減少と連動したり、読書離れと連動しているのかもしれない。
- ・ この項目が一番大事なところ。現状を伝えるのに藤沢市の蔵書構築状況を比較として明記してほしかった。蔵書購入が足りない現状をこの場を借りて訴えてほしい。延べでなく実質市民の貸出利用人数、市外貸出利用人数も参考に入れてほしかった。
- ・ 若干、未実施の分野もあるが初めての分析業務であるので、拙速な分析ではなく、時間がかかってもしっかり分析をしている点は大いに評価できる。分析だけでなく、今後は分析に基づいた蔵書選択などにも反映して、より市民のニーズに沿う図書館になっていただきたい。電子書籍の導入の際の検討資料にもなると考える。

目標 1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組 2 議会図書館や総務課行政資料コーナーと連携しながら、行政資料の網羅的収集を実現します。

令和 5 年度（2023 年度）			
指標項目	実績	自己評価	
1 年間に出版された行政資料のカバー率		<p>全体の母数把握は、各課が単発で発行する資料もあつたり、新型コロナウイルス流行等で発行が年単位で遅れているところもあるため把握が難しかった。</p> <p>そのため、今後はタイトル数の増加で評価を検討したい。</p> <p>行政資料の網羅的収集を目指し、各課へ収集への協力を年 2 回呼びかける予定。</p>	
これまでの欠号調査と補完			
評価項目	実績	自己評価	
電子資料の保存法検討	<p>資料保存をした際、電子資料を公開している場合は、URL 先をリンク先として保存し、利用者の利便性を図った。ただ、リンク先の URL が変わる場合がある。</p>	<p>電子資料でしか公開していない行政資料がある。各課へ行政資料の収集への協力を依頼する際、紙で印刷した資料を納品してほしい旨を呼びかけていく。</p>	B

目標 1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

取組 1 長期的展望に沿った研修計画を策定して、知識やスキルの継承ができるよう、職員の育成を図ります。

令和 5 年度（2023 年度）			
指標項目	実績	自己評価	
レファレンス記録件数	99（前年同時期 + 1）	令和 4 年度とほぼ同等の記録を行うことができた。参考資料の増加点数については初年度のため比較検証できない。	A
レファレンス協同データベース新規登録件数	63（前年同時期 + 4）		
参考資料増加点数	+187		

令和 5 年度（2023 年度）			
評価項目	実績	自己評価	
研修計画の策定状況	短期的な研修計画は作成中であるが、長期的な計画は検討中。	長期的に図書館のあり方や職員が担う業務の展望を見通せておらず、研修計画も短期的な内容に留まっている。	B

【協議会委員コメント】

・レファレンス協同データベース新規登録件数については、他の図書館の登録内容に比べて、詳細な内容が記述されており、質・量ともに素晴らしい内容である。また、新規だけでなく過去に登録した事例も適時内容更新が行われている点も評価できる。こうした登録事例をみればわかるように利用者へのレファレンスもしっかり行われていると思われるので、引き続きしっかり取り組んでいただきたい。

・研修計画の策定状況については、勤務年数や職位等に応じて適切な研修の実施をすることが望まれる。司書の役割は幅広くなってきており、研修内容も従来の図書館業務に関連することだけではなく、例えば社会教育士などの関連分野などの知識も得られるような研修なども検討していただきたい。

・これからの新図書館整備に向けた他県等の図書館見学などの研修を希望する

目標 1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

取組 3 資料と利用者のニーズを熟知した職員が継続してサービスを提供できるよう、必要な職員が配置される体制づくりを目指します。

指標項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
職員の平均年齢	48.1	新採用があったことは喜ばしい。 その一方で本年度も資料サービス担当の欠員が補充されず、腰越の職員が - 1 となり、中央から毎週応援を仰ぐこととなっている。 新採用職員に対しては、メンターによるフォローや研修機会の確保等に留意 した。
職員の平均図書館在籍年数	16.2 年	
職員数（資料サービス担 当）	18	
欠員数	1	
司書率	90%	
受講研修内容	児童図書館員養成専門講座 読書バリアフリー関連の講習等を多数受講 (別紙参照)	B
研修講師実績	ボランティア養成講座や教職員対象の研修 講師のほか、業務外で大学の司書課程の講 師を 2 校で務めた。	
		A

【協議会委員コメント】

- ・ これからの新図書館整備に向けた他県等の図書館見学などの研修を希望する
- ・ 数十年ぶりに新規採用者が入職したことは特筆すべきことである。行政の職員定数や財源確保など困難な状況にはあるが、図書館が継続的に発展して市民の生涯教育に資する役割を果たすためには長期的な職員採用や養成の展望が必要である。引き続き関係部署に働きかけながら職員数の充実を図っていただきたい。
- ・ 健全な図書館運営には職員の欠員補充が絶対条件。司書率 100% が達成されるよう取得に向けての研修を援助してほしい。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組 1 大活字本、朗読 CD、デージー図書、LLブック、マルチメディアデージー等の充実と利用促進を図ります。

指標項目	令和 5 年度 (2023 年度)	
	実績	自己評価
大活字本所蔵点数	+27	大活字本は視力の弱い利用者に活用されている。意識的に購入することができたと思う。 大活字本は発行数が少ないため、発行されたらすぐ購入をしていくよう心掛けたい。 令和 5 年度はデージー図書で読書を楽しむ視覚障害者があり、サピエ図書館を通してデージー図書を借用したり、鎌倉朗読録音奉仕会が音訳したデージー図書を提供したりした。
大活字本貸出点数	1,757	
朗読 CD 所蔵点数	1,044(不明除く)	
朗読 CD 貸出点数	2,483	
デージー図書所蔵点数	511	
デージー図書貸出点数	87	
LLブック所蔵点数	+31	
LLブック貸出点数	268	
マルチメディアデージー所蔵点数	17	
マルチメディアデージー貸出点数	0	

A

【協議会委員コメント】

・大活字本や LL ブックの所蔵増加など一定の取り組みを継続的に行っており、評価できる。LL ブックは一般の利用者も利用できるが、こうした誰もが利用できる資料の充実に今後も期待したい。

・この重点事業に関係する具体的な取組内容とその自己評価を拝見すると、「高齢者」を対象とするサービスが何も示されていないように感じる。鎌倉市の高齢者人口の多さを考えれば、「高齢者」に対するできる限りのサービスの充実と拡充は当然必要な内容である。何らかの計画、対策等についての記述は必要なのではないか。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組 2 多言語資料の収集に努めます。

指標項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
所蔵する資料の言語の種類数（日本語以外）	36	重点事業となったことで意識的に多言語資料の収集を行うことができた。貸出点数が伸びているのは PR の効果か所蔵点数が増えたことによるものか今後も注視していく。
日本語以外の資料の所蔵点数	前年同時期より +95	
日本語以外の資料の貸出点数	前年同時期より +1838	

A

【協議会委員コメント】

- ・釜山の図書館を訪れた際に、釜山市と交流提携を結んでいる横浜市立図書館とお互いの言語の図書の交換を行っており、横浜市立図書館から送られた図書が書架に並んでいた。鎌倉市と交流提携を結んでいる海外の都市と図書交換をして多言語図書を増やす取り組みもぜひ検討してほしい。
- ・多言語資料については予算の制約もあると思うが、多様な利用者への対応を考える上では必要なことだと思うので、多言語環境が見られる自治体の図書館との連携も視野に入れて取り組んでいただけると良いのではないかと。
- ・どの言語の資料を何冊収集できたのか、具体的な数字を合わせて列記して欲しい。貸出数が伸びているのはどの言語の資料か。貸出利用者の年齢も合わせて知りたい。収集だけでなく、どのように利用促進を図ったのかも補足していただきたい。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組 4 有料宅配サービスを始めとする図書館の様々なサービスを周知できるよう広報を強化します。

		令和 5 年度（2023 年度）	
指標項目	実績	自己評価	
有料宅配サービス利用数	貸出 11 人 62 点、 返却 11 人 52 点	新規登録者数が 6 人増えた。障害者手帳を取得した際に、『福祉の手引き』で知った方、地域館を利用したときに案内があったなどの声がありそれなりに PR の効果が出ていると思われる。 障害者サービスのチラシを作成して発行予定。 図書館だよりは年 4 回の発行を目指していたが、3 回にとどまった。	B
図書館だより発行数	No.141・No.142 発行 No.143 発行予定		
ホームページ閲覧数	全体数のみカウント可 1,100,962		
障害者サービス登録者数	81		
どのような広報をおこなったか	『福祉の手引き』掲載。 鎌倉市図書館ホームページ掲載 5 月 児童福祉週間の展示、9 月 認知症啓発展示、12 月 障害者週間の展示。 障害者サービス登録のちらし発行。		

【協議会委員コメント】

・特別な支援やニーズのある方々に対してもしっかり告知やサービスを行っており、評価できる。利用者への資料宅配については、障害者のみならず歩行困難な高齢者にも無料の宅配サービスができると良い

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組 5 サピエ図書館の周知に努め利用促進を図ります。

		令和 5 年度（2023 年度）	
指標項目	実績	自己評価	
サピエ図書館利用数	114	<p>令和 5 年度はデイジー図書で読書を楽しむ視覚障害者がいたため、利用数は令和 4 年度に比べて増えた。</p> <p>国立国会図書館の視覚障害者等用データの送信を受けることができる図書館等として申請をし、承認された。登録者への利用呼びかけやホームページ等で掲載することで、本市で所蔵しているデイジー図書以外も提供できることを周知していきたい。</p> <p>サピエ図書館登録数については図書館で把握ができないので削除としたい。</p>	A
サピエ図書館登録数	—		
どのような周知を行ったか	<p>図書館ホームページで周知。</p> <p>サピエ図書館のチラシの配布。</p> <p>市の障害者サービス新規登録者への声掛け。</p>		

【協議会委員コメント】

- ・ サピエ図書館は他館でもなかなか利用が伸びていないので、利用数が増えていることは非常に評価できる

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組 1 タブレットの貸出や Wi-fi の設置など、館内の ICT 環境の整備方法を検討します。

評価項目	令和 5 年度(2023 年度)	
	実績	自己評価
ICT 環境整備に向けて何を行ったか	令和 6 年度（2024 年度）に各館に wi-fi を導入することを検討し、館内環境の調査、見積もりを取得した。予算に限りがあり、令和 6 年度予算要求は中央図書館のみにとどまった	長年要望のあった wi-fi 導入に向け、具体的な一歩を踏み出すことができた。来年度は中央館のみの導入となるが、導入実績や利用状況、利用者からの反応をみて、地域館にも展開していけるよう努めたい。

A

取組 2 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想」の中でうたわれている将来的な「MLA 連携」を視野に入れた「デジタルアーカイブ」の発信と活用を促進します。

評価項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
デジタルアーカイブの発信と活用に向けて何を行ったか	所蔵の震災史料デジタル資料について、関東大震災 100 年を節目に、防災資料としての活用のため、国、県への情報提供を行った。 令和 5 年（2023 年）3 月に発行した『古都鎌倉へのまなざし』掲載写真データの活用による各地域での写真展等の開催に資料提供を行った。	コンテンツの活用の幅が広がるよう、今後は資料情報の付与や、利用方法の案内や活用方法の提案の工夫を行いたい。

A

【協議会委員コメント】

- ・中央図書館に wi-fi が整備されたので、引き続き他館での整備に向けて努めていただきたい。特に PC で学習や調べものをする利用やには wi-fi は必須であるので早急な整備が求められる。また電源コンセント等の整備も検討していただきたい。
- ・画像の解説文や文書であれば書き下し文や現代語訳など、コンテンツとしてさらに理解や興味が深まるような工夫も今後に向けて検討していただきたい。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組 3 図書館資料のデジタル化と公開を推進します。

指標項目	令和 4 年度(2022 年度)		令和 5 年度(2023 年度)	
	現状	実績	自己評価	
デジタル化された資料点数	54,615	2436 (～2023.3.31 予定)	判型の大きい古絵図、アルバムに貼り込んである写真資料等自館でのデジタル化が技術的に難しい資料のデジタル化の外部委託を行った。	
デジタル化資料のホームページアップ件数	1,301	デジタル化資料の登録公開 84 点 (～2023.12.31)	主に錦絵のデジタル化資料の公開に努めた。	
ジャパンサーチ閲覧件数	82	108 (～2024.12.31)	関東大震災 100 年に伴い、震災資料の閲覧が多くみられた。	

A

取組 4 新聞、百科事典などのデータベースの充実に努めます。

評価項目	令和 5 年度(2023 年度)	
	実績	自己評価
データベース充実に向けて何を行ったか	情報収集を行った。	予算の確保が難しく、令和 6 年度に向けた予算要求には至らなかった。

B

【協議会委員コメント】

- ・ジャパンサーチとの連携など、他館ではあまり見られない環境整備をしっかりと行っている点は大いに評価できる。(県立図書館等の大規模図書館でもジャパンサーチが未連携のところが多い)
- ・データベースについても、無料で利用できる有用なデータベースのリンク集やパスファインダーのさらなる整備をお願いする。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組 5 電子書籍導入の検討を行います。

評価項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
どのような検討を行ったか	<p>7月に電子書籍についての考え方をまとめた。</p> <p>9月、市のシステム審査会に電子書籍導入について、趣旨は了承された（予算の裏付けはなく、補助金を取るなどが必要）。</p> <p>TRC、オーバードライブ（TOHAN）からの情報収集に努めた。</p>	<p>電子書籍については、近年導入する図書館が増えていること（神奈川県内では 33 市町村中 16、約 50%が導入）、ブランクエリア対策、バリアフリー対策にもなることから、積極的に導入の検討を進める必要があるが、あくまでも紙資料の補完であり、保存と提供を両立させるためのレプリカ的な役割が主であること、また図書館に來られない方などに向けた付加的なサービスとして活用できると考えるとした。</p> <p>デジタル田園都市の補助金の獲得ができないか検討を行ったが、満額の内容には当たらず、経常経費のねん出が必要で、来年度導入の予算要求には至らなかった。</p>

B

取組 6 図書館ホームページ内で鎌倉に関する情報コンテンツの連携を検討します。

評価項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
どのような検討を行ったか	<p>鎌倉学(市内 5 地域それぞれの地域資料)のパスファインダーの改訂に取り組んだ。リンク集の改訂を検討している。</p>	<p>令和 5 年度はまだ検討段階で、成果を上げられていない。パスファインダーは 2 月に改訂予定。</p>

B

【協議会委員コメント】

- ・ 導入したが利用が少ない図書館も多いが、アメリカや韓国の公共図書館の現状では電子書籍の提供は当たり前のこととなっており、導入して終わりではなく、

どのように利用者を増やしていくかなど蔵書構成なども含めて検討を引き続きしていただきたい。

・電子書籍の購入に関しては本当に図書館所蔵に値する書籍かを良く判断してほしい。売れる書籍が電子化されているとも聞く。図書館としての購入判断の基準を明記して購入を進めてほしい。

目標 2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

3 利用者の利便性を高める図書館業務システムの更新

取組 1 令和 6 年度（2024 年度）に新図書館機能を視野に入れて図書館業務システムを更新し、利便性の向上を図ります。

評価項目	令和 5 年度（2023 年度）	
	実績	自己評価
図書館業務システムの更新内容	<p>令和 6 年度のシステム更新に向けカスタマイズ内容の洗い出し、要件を整理中。</p> <p>検討中の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内の検索機を、子どもやパソコンに不慣れな方でも分かりやすいような画面構成も選べるようにする。 ・スマートフォンにログインすることで貸出カードを表示させ、貸出できるようにする。 ・延滞日数に応じた新規予約受付の停止を実装する。 ・督促メールにタイトル等書誌事項を記載する。 	<p>予算が限られているため、現行システムで要望の多い内容について導入が可能か、システムベンダーと調整する必要を進めている。今後要件を詰めていく中で、実現可能なものはできる限り盛り込んでいきたい。</p>

A

【協議会委員コメント】

・利用カードの代わりにスマホのアプリで貸出手続きができる図書館（例：川崎市立図書館）などの事例もあるので、スマホアプリの導入も検討していただきたい。（個人情報をしっかり守ることが大前提の上での話になる）

協議会委員コメント

全体について

- ・図書館職員の方の仕事の全容がわかり、業務が多岐にわたることを改めて実感した。さらなる職員増が望まれる。
- ・一番重要な蔵書構成を C と判断したところに、職員間で鎌倉市図書館の現状のありかたを危惧し、危機感が共有されていると感じた。このことを評価したい。
- ・電子化、多様性への対応、多言語蔵書の収集など、図書館の仕事も昔に比べて多岐にわたっている。鎌倉は歴史的資料に対応する職員の育成も欠かせない。その中で、通常業務の職員の欠員は図書館運営に差し支える大問題。全体のバランスを見て、次年度の専任司書の採用を早急に対応してほしい。
- ・「長期的に図書館のありかたは職員が担う業務の展望を見通せておらず研修計画も短期的な内容にとどまっている」と問題点を自ら明記しているところを評価したい。長期的展望を鑑みて、専門的研修の機会を増やして、司書の力量を上げていただきたい。
- ・多忙な中でも、将来へつなぐ図書館実現へと職員の方々の意欲が伝わってきた。これだけのことを今年達成できたという思いを大事にして、今後魅力的な図書館の実現に向けて今回の評価を活用していただきたい。

用語解説

【LLブック】

「やさしく読みやすい本」という意味のスウェーデン語（Lättläst）の略。文字情報を正確に読めない、読むことが苦手な人のために読みやすく書かれた本。幼児向けという意味ではなく、それぞれの生活年齢に合った内容がやさしく理解できるよう配慮されている。

【サピエ図書館】

日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行っている図書館。会員登録することによりホームページから点字データ、デイジーデータをパソコンや携帯電話にダウンロードすることができる。また、加盟している図書館が所蔵する資料を、オンラインリクエストなどによって利用できる。

【ジャパンサーチ】

国会図書館がシステムを運営する、我が国の幅広い分野のデジタルアーカイブと連携し多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォーム。

【蔵書回転率】

図書 1 冊につき、1 年間に何回貸出されたかを示す数値。 $\text{年間貸出冊数} \div \text{蔵書冊数}$ 。

【蔵書更新率】

資料の更新が 1 年間にどの程度されているかを示す数値。 $(\text{受け入れ冊数} + \text{除籍冊数}) \div \text{蔵書冊数}$ 。

【蔵書新鮮度】

1 年間に蔵書がどれだけ新しくなっているかを示す数値。 $\text{新規受け入れ冊数} \div \text{蔵書冊数}$ 。

【大活字本】

弱視者（低視力者、高齢者など）にも読みやすいように、大きな活字で版を組みなおされた本のこと。

【デイジー図書／マルチメディアデイジー】

デイジー図書とは、CD-ROMなどに録音した図書のこと。通常の録音図書と違い、大量の情報を蓄積でき、読みたいページへのジャンプ機能がついているなど利便性が高い。

デイジーは専用の機器でしか再生することができないが、一般的な利用ができるようパソコンでの再生に対応したものがマルチメディアデイジーである。

文字・音声・画像を同時に再生でき、文字の大きさや読み上げるスピードの変更なども可能。どちらも印刷された文字を読むことが難しい障害をもつ人などの読書手段として利用される。

【デジタルアーカイブ】

文化資産をデジタル映像で保存蓄積するもの。鎌倉市図書館では近代史資料室の古写真や絵図、古地図等を順次デジタル化し、ホームページ上で公開している。

【やさしい日本語】

日本語を母語としない人など、だれにでもわかりやすく配慮した簡単な日本語。

【レファレンス】

調べごとや探しもののお手伝い。何らかの情報を求めている人に対し、図書館員がその回答や参考となる資料を紹介するなどして、利用者と必要な資料や情報との出会いを助けるサービス。

【レファレンス協同データベース】

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調べ物のためのデータベース。一般公開事例はだれでも閲覧できる。